1%の本質を最速でつかむ「理解力」

・1章

著者が思う「理解力」とは物事の仕組みや状況、関係者等を正しく把握すること。

それを実現するためには「理解したつもり」という壁を乗り越えて、深みへ踏み込む力が必要。

理解力が高いと、

1. 相手とスムーズにコミュニケーションができる。
2. 情報が分かりやすく伝わる。
3. 物事を正しく評価・分析することができる。
4. アイディアを膨らませることができる。
5. その場にふさわしい行動を取ることができる。
6. 迷わずに目標や夢へ突き進むことができる。
7. 相手が求めていることを差し出すことができる。
8. AI時代になっても、求められる人材になれる。

高くするためには、

1. 物事を一つ面で考えるのではなく、色んな角度からアプローチする。
2. その時の状況や情報を考え、推測する。
3. 聞く、読む、体験する、思考する。特に体験が一番記憶に残る。
4. 幹、枝、葉の順で理解し、幹が何かを最初考える。
5. 言葉を理解する。知らない言葉があったら、聞くもしくは検索して意味を調べる。その行為をしないと、その言葉は知らないままになる。

気を付けることは、

1. 自分の知識で偏らないこと。例えば、「仕事が終わったトラック運転手を夫が迎えてくれた」時、トラック運転手が必ず男だと考えないこと。
2. 今の情報が合っているか誤認識ではないか確かめること。例えば、優秀な営業の人が退職したまたは営業がコロナの影響でオンラインになったという状況で営業実績が最近悪くなった場合、その原因を「優秀な営業の人が退職したため」と「営業がコロナの影響でオンラインになったため」と誤理解する可能性がある。その他の理由（競合会社の戦略が当たってお客さんが全部そこに行った）等があるかもしれないので、自分が持っている情報で偏らないこと。

1章を読んで私が特に思ったのは、三つありました。

1. 物事を一つ面で考えるのではなく、色んな角度からアプローチする。

⇒課題を解決する方法は一つだけではなく、色んな方法がある。一つが見つかったとしてそれが一番効率的なことだとは思わないこと

1. 言葉を理解する。知らない言葉があったら、聞くもしくは検索して意味を調

⇒最近、知らない言葉が会議中に出てもそのままスルーするのが多かったのです。そのため、再度出ても知らない場合がありました。これからはなるべく探すようにしたいと思います。

1. 自分の知識で偏らないこと

⇒自分が知っているスキルと違ったら、相手が知らないと思う傾向があります。

謙遜し、自分が間違っている可能性があると注意しつつ、相手のことを尊重したいと思います。